

柔道における体格がその勝負に 及ぼす影響についての研究

金田 一 芳 美

An Investigation into the Influence of Jūdō-men's Build
on the Results of their Matches

YOSHIMI KINDAICHI

I 調査のねらいとその方法

従来少くとも昭和20年以前には柔道においては体格の相違によって勝敗を決定する方法（現在行われている体重制）は、みられなかった。ただし無差別制の中にも段別、または年齢別の方法はあったが昭和20年以後において一般、高校、国民大会及び今回の東京オリンピックにも他の格技系統のレスリング、ボクシングと同様体重制が採用された。柔道の試合で体重の相違が勝敗の決定的条件になるだろうか。段位制のある現在それ程細かな制限を考える必要がないのではないかというのが私の考えであった。しかし実際の試合の内容がどうなっているかを調査し検討を加え、事実を明らかにするのがこの調査のねらいである。

調査の対象は岩手県高等学校体育連監柔道専門部会に提出された参加申込書を利用した。この申込書には、身長、体重、胸囲、段級、学年、年齢を記入することになっているので、調査の目的にそう充分の資料となしうる。試合についての勝敗及び施技名など細部については各試合場に本学柔道部の学生を配置し記録をとらせた。

II 結果とその考察

1 調査人員とその段位

昭和39年6月盛岡市立河北小学校講堂で行われた岩手県高等学校総合体育大会柔道大会兼全国高等学校柔道大会岩手県予選の全日制41校279試合の219人について調査した選手の実態は次の表1の如くである。

表1 学年別段位表

学 年	無		初		2		計	
	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%
1	6	8	8	6	0	0	14	6
2	17	23	39	30	0	0	56	26
3	50	69	85	64	14	100	149	68
計	73		132		14		219	

「備考」2、3年生の無段者67人中には年1～2回の昇段試験（岩手県柔道協会が行う）に何かの都合で受験できず有段者としての力を持っていると思われる者が相当数あることが試合中にみられた。

2 勝敗と体格の調査結果

表2 試合内容

試合 番号	勝者			勝技名	敗者		
	段位	身長	体重		段位	身長	体重
1	2	cm 166	kg 70	合せ技	無	cm 171	kg 61
2	初	162	63	大外落	初	165	60
3	初	170	66	跳腰	初	160	60
4	初	162	63	出足払	無	164.5	57
5	初	169	68	送足払	初	171	67
6	無	159	60	釣込腰	初	166	67
7	初	162	67	上四方固	初	169	57
8	初	173	66	背負投	無	163	59
9	初	169	64	送足払	初	170	62
10	無	169	67	支釣込足	初	171	65
11	初	170	67	内股	初	166.5	62
12	無	166	63	不明	無	168	68
13	初	174	72	内股	初	167	77.5
14	初	170	68	引分	無	171	60
15	無	162	60	大内返し	無	167	57
16	初	171	65	大外刈	初	166	58
17	初	160	60	払巻込	無	169	60
18	初	162	60	背負投	初	164	55
19	2	163	62	背負投	初	161	61
20	初	179	65	肩固	無	160	62
21	無	165	75	大外刈	無	155	55
22	無	170	69	引分	無	166	60
23	無	170	74	上四方固	無	160	56
24	無	175	72	引分	無	165	56
25	無	158	53	支釣込足	初	171	69
26	初	160	58	引分	初	167	63
27	初	169	73	内股	初	170	63
28	初	172	65	袈裟固	初	161	65

試合 番号	勝者			勝技名	敗者		
	段位	身長	体重		段位	身長	体重
29	初	cm 161	kg 65	引分	無	163	60
30	無	167	63	返し技	初	171	63
31	初	168	65	内股	初	158	55
32	無	161.8	68	引分	初	163	70
33	初	166	68	大外返し	初	163	70
34	初	166	68	袈裟固	初	163	75
35	無	172.4	67	引分	初	173	67
36	初	169	65.5	引分	初	163.7	60
37	初	158.2	59	釣込腰	初	163.3	62
38	初	168.9	65.7	払腰	初	164.7	68
39	初	169.7	64.3	内股	初	163.6	62
40	初	174	70.5	背負投	初	157.8	57
41	初	158.2	59	十字固	初	168.9	65.7
42	2	166.5	70	不明	初	157	56
43	初	162	63	不明	初	162	64
44	初	170.2	66	跳腰	初	166.7	69.7
45	初	162	63	上四方固	初	165.7	68
46	初	169	67.5	大外刈	初	166.3	65
47	無	168	63.2	体落し	初	166	67
48	初	162	67	送足払	初	170	61.4
49	無	170.2	65	引分	無	163.0	95
50	初	163	59	袈裟固	初	163.5	64
51	初	163	60	袈裟固	無	169	67
52	初	169	64	内腰	初	163	60
53	初	170	67	大外刈	初	160	68
54	2	161.2	67	背負投	無	168.2	68
55	初	174	72	内股	初	166	65
56	2	166	65.5	十字固	無	171	60

試合 番号	勝者			勝技名	敗者		
	段位	身長	体重		段位	身長	体重
57	初	175.1 ^{cm}	68.5 ^{kg}	引分	無	162	60
58	2	166	65.5	背負投	初	174	72
59	初	173	72	引分	初	171	65
60	初	170	60	引分	初	160	60
61	初	164	66	内股	初	162	60
62	2	163	62	背負投	初	165	60
63	初	162	70	引分	初	179	65
64	2	162	62	縦四方固	初	164	66
65	初	166	63	引分	無	165	75
66	初	170.2	64.5	小内刈	無	170	69
67	初	176	68	払腰	無	170	74
68	初	170.5	65.6	縦四方固	無	175	72
69	2	166	66	小内刈	無	158	53
70	2	166.5	70	引分	初	167	63
71	初	162	63	大内返し	無	170	63
72	初	172.5	65	返し技	初	170.2	66
73	初	162	63	体落し	無	163	60
74	初	169	67.5	送足払	無	167	63
75	初	166	67	不明	初	168	65
76	初	162	67	引分	無	161.5	67.5
77	無	163	59	絞技	初	165	68
78	初	169	64	跳腰	初	166	68
79	無	172.4	67	背負投	無	169	67
80	初	160	58	引分	初	168.9	65.5
81	2	161.2	67.5	背負投	初	158.2	59
82	初	166	65.0	跳腰	初	164.7	68
83	2	166	65.5	跳腰	初	163.6	62
84	初	175.1	68.5	引分	初	174	70.5
85	初	166	63	背負投	初	171	65
86	初	170.2	64.5	釣込腰	初	160	60

試合 番号	勝者			勝技名	敗者		
	段位	身長	体重		段位	身長	体重
87	初	176 ^{cm}	68 ^{kg}	内股	初	162	60
88	2	163	62	小内刈	初	170.5	65.6
89	2	166	66	袈裟固	初	179	65
90	2	166.5	70	払腰	初	166	67
91	初	162	63	送足払	初	162	67
92	初	170.2	66	引分	無	163	59
93	初	162	63	大外刈	初	169	64
94	初	169	67.5	大内刈	無	169	67
95	初	166	63	大内刈	初	160	58
96	2	161.2	67.5	引分	初	170.2	64.5
97	初	176	68	絞技	初	166	65
98	初	170.5	65.6	跳腰	2	166	65.5
99	2	166	66	背負投	初	175.1	68.5
100	2	166.5	70	大内刈	初	166	63
101	初	162	63	釣込腰	初	170.2	64.5
102	初	176	68	内股	初	170.2	66
103	初	162	63	引分	初	170.5	65.5
104	初	169	67.5	送足払	2	166	66
105	初	165	65	跳腰	無	162.2	60.7
106	無	161	67	絞技	無	164	55.7
107	初	170	76	背負投	無	168	65
108	初	169	65	背負投	無	165.5	60
109	無	169	65	跳腰	初	168	65
110	初	165	65	引分	初	164	62
111	無	162	56	引分	初	168	57
112	初	170.4	67	内股	初	165.5	55
113	無	163	55	引分	初	162.3	63
114	2	161.6	62	跳腰	初	158.1	53
115	初	165	65	引分	2	161.6	62
116	初	164	62	横四方固	初	158.6	53

試合 番号	勝者			勝技名	敗者		
	段位	身長	体重		段位	身長	体重
117	初	cm 167	kg 63	内腰	初	cm 167	kg 63
118	初	168	64	内股	無	161	63
119	無	172.2	66	合せ技	初	168	64
120	無	168	59	不明	初	169	68
121	無	170	76	不明	初	167	62
122	初	170	71.5	内股	無	不明	56.2
123	無	171	74	引分	初	163.5	60
124	無	166	65	背負投	初	不明	55
125	無	175.8	71.5	小内刈	無	不明	54.5
126	初	不明	64	合せ技	無	167	62
127	初	165	57	内股	無	164.8	56
128	初	163	62	上四方固	無	173.9	89
129	無	169	61	内股	初	166	59
130	初	155	69	背負投	無	161.7	62
131	初	165	59	背負投	無	161.6	62
132	無	164.4	59.5	跳腰	初	162	60
133	2	174	68	跳腰	無	163	54
134	2	163	65	背負投	初	172.7	69
135	初	173	65	内股	無	162.6	62.5
136	初	163	63	釣込腰	初	171.8	69
137	初	164.2	62.5	返し技	初	173	64
138	初	173.5	73	跳腰	無	173	74
139	初	160.5	62	引分	無	162	62
140	初	172.0	70.2	返し技	初	174	72
141	初	173	68	大外刈	無	172	70
142	初	165	67	不明	無	163	64
143	無	166	61	払腰	無	166.7	62.5
144	無	164	61	引分	無	171	64
145	無	172	65	崩方上固	無	165	57
146	初	165	67	返し技	無	167	62

試合 番号	勝者			勝技名	敗者		
	段位	身長	体重		段位	身長	体重
147	初	cm 165	kg 67	体落	初	cm 166	kg 61
148	初	164	67	払腰	初	165	65
149	初	163	68	引分	無	169	67
150	初	170	67	大外刈	初	165	67
151	初	175	67.5	払腰	初	169	65
152	初	172	71	跳腰	無	169	65
153	2	165	80	背負投	初	164	62
154	2	169	73	跳腰	初	165.5	57
155	初	167	67	内股	初	170.4	67
156	初	175	75	横四方固	初	162.3	63
157	2	161.6	62	体落	初	167	65
158	初	167	63	横四方固	無	168	60
159	初	169	58	内股	無	171	73
160	初	168	64	絞技	無	170	56
161	初	169	68	大外刈	無	166	60
162	初	167	62	背負投	無	155	52
163	無	不明	56	合せ技	初	158	62
164	初	不明	60	背負投	初	167	70
165	初	不明	55	引分	初	174	60
166	無	不明	54.5	合せ技	初	165	65
167	初	不明	64.0	引分	初	162	55
168	2	171	65	跳腰	初	165	57
169	初	165	70	跳腰	初	163	62
170	2	173	72	内股	無	161.5	63
171	2	172	77	内股	初	155	59
172	初	170	68.5	内股	初	165	57
173	初	164	67	跳腰	初	162	60
174	2	174	68	跳腰	初	163	68
175	2	163	65	引分	初	165	67
176	初	176	67.5	引分	初	173	65

試合 番号	勝者			勝技名	敗者		
	段位	身長	体重		段位	身長	体重
177	初	cm 177	kg 69	釣込腰	無	cm 172	kg 71
178	2	165	80	引分	初	164.2	62.5
179	2	169	73	不明	初	173.5	73
180	初	167	67	引分	初	160.5	62
181	初	175	75	内股	初	172	70.2
182	初	173	68	跳腰	初	167	65
183	2	169	73	引分	初	173.5	73
184	2	165	80	袈裟固	初	164.2	62.5
185	初	167	63	引分	初	165	67
186	初	169	58	跳腰	無	166.7	62.5
187	初	168	64	跳腰	無	164	61
188	無	165	57	背負投	初	169	68
189	初	167	62	引分	初	165	67
190	初	170	71.5	小内刈	2	171	65
191	初	165	70.0	背負投	無	171	74
192	2	173	72	跳腰	無	166	65
193	2	173	77	背負投	無	175.8	71.5
194	初	166	65	払腰	無	167	62
195	初	162	60	引分	2	165	80
196	2	169	73	払腰	2	174	68
197	初	167	67	払腰	2	163	65
198	初	173	65	内股	初	175	75
199	初	167	65	跳腰	初	163	63
200	初	166	65	横四方固	初	167	63
201	初	165	70	跳腰	初	169	58
202	2	173	72	内股	初	168	64
203	2	172	77	跳腰	初	169	68
204	初	170.2	68.5	合せ技	初	167	62
205	2	165	80	袈裟固	初	166	65
206	2	169	73	払腰	初	165	70

試合 番号	勝者			勝技名	敗者		
	段位	身長	体重		段位	身長	体重
207	2	cm 173	kg 72	跳腰	初	cm 167	kg 67
208	2	172	77	内股	初	175	75
209	初	170.2	68	払巻込	初	167	65
210	2	166.5	70	釣込腰	初	166	65
211	初	162	63	引分	初	165	70
212	2	173	72	内股	初	170.2	66
213	2	172	77	内股	初	162	63
214	初	169	67.5	不明	初	170.2	68.5
215	2	172	77	跳腰	2	166.5	70
216	初	166	67	不明	初	158.2	59
217	初	170	67	跳腰	初	163	64
218	初	164.2	62.5	内股	無	163	57
219	初	161	65	釣込腰	無	不明	
220	初	170.5	65	返し技	無	不明	
221	初	171	67	釣込腰	無	不明	60
222	初	175	67.5	内股	初	158	62
223	初	155	59	背負投	初	167	57
224	初	168.9	65.7	合せ技	初	168	62
225	初	169	67.5	背負投	無	166	67
226	初	170.5	65.6	跳腰	初	168.9	65.7
227	2	174	68	内股	初	170	67
228	初	164.4	59.5	不明	無	不明	
229	2	164.5	60	釣込腰	初	164.2	62.5
230	初	167	67	内股	初	168	59
231	初	161	65	大内刈	2	166	65.5
232	初	170.2	68.5	内股	初	169	64
233	初	162	63	体落	初	172.5	65
234	初	170	67	大外返し	初	173	66
235	初	163	60	払腰	初	165.7	59.5
236	初	175	67.5	払腰	初	164	62

試合 番号	勝者			勝技名	敗者		
	段位	身長	体重		段位	身長	体重
237	初	cm 162	kg 64	背負投	初	cm 165	kg 65
238	初	176	68	袈裟固	初	155	59
239	2	163	62	背負投	初	168.9	65.7
240	初	170.5	65.6	横四方固	初	169	67
241	2	174	68	上四方固	初	164.4	59
242	初	167	67	内股	2	164.5	60
243	初	170.2	68	払腰	初	161	65
244	初	162	63	背負投	初	170	67
245	初	171	67	内股	初	163	60
246	初	175	67.5	内股	初	162	64
247	初	176	68	跳腰	2	163	62
248	2	174	68	内股	初	170.5	65.6
249	2	170.2	68	跳巻込	初	167	67
205	初	175	67.5	内股	初	176	68
251	2	174	68	内股	初	170.2	68
252	初	175	67.5	内股	初	162	63
253	2	174	68	内股	初	175	67.5
254	初	163	69	大内刈	初	173	70
255	初	168	70	返し技	初	不明	
256	無	170	68	膝車	無	170	68
257	初	168	68	大内刈	初	177.6	75
258	2	165	80	袖釣込	無	171	73

試合 番号	勝者			勝技名	敗者		
	段位	身長	体重		段位	身長	体重
259	初	cm 169.1	kg 73	背負投	初	cm 173	kg 72
260	無	172	68	上四方固	初	171	69
261	初	173	71	大内刈	初	174	72
262	初	163	68	跳腰	初	163	70
263	初	168	71	跳腰	初	166	68
264	初	168.7	70	背負投	初	174	73
265	2	173	77	背負投	無	163	69
266	初	168	70	返し技	初	不明	64
267	初	173.5	73	合せ技	初	170	68
268	2	165	80	背負投	初	168	69
269	2	173	72	内股	初	169.1	73
270	初	172	65	大内刈	初	173	71
271	2	170	74	絞技	初	163	68
272	2	168.7	70	合せ技	初	168	71
273	2	172	77	跳腰	初	168.8	70
274	初	173.5	73	内股	2	165	80
275	初	169.1	73	内股	無	不明	
276	2	170	74	払腰	2	168.7	70
277	初	173.5	73	抽せん	2	172	77
278	2	170	74	払腰	初	169.1	73
279	2	170	74	払腰	初	173.5	73

3 体重差と勝敗の分布

表 3

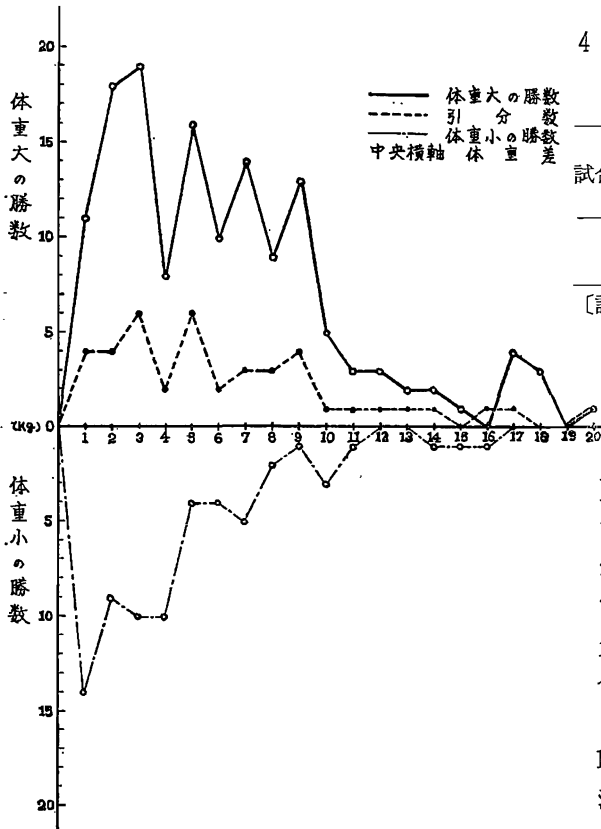
差 kg	区分	相手より体重大の 勝者数 (%)	相手より体重小の 勝者数 (%)	引分数 (%)	計
1		11	14	4	29
2		18	9	4	31
3		19	10	6	35
4		8	10	2	20
5		16	4	6	26

細 kg	区分	相手より体重大の 勝者数 (%)	相手より体重小の 勝者数 (%)	引 分 数 (%)	計
6		10	4	2	16
7		14	5	3	22
8		9	2	3	14
9		13	1	4	18
10		5	3	1	9
11		3	1	1	5
12		3	0	1	4
13		2	0	1	3
14		2	1	1	4
15		1	1	0	2
16		0	1	1	2
17		4	0	1	5
18		3	0	0	3
19		0	0	0	0
20		1	0	1	2
21		0	0	0	0
計		142(56.8%)	66(26.4%)	42(16.8%)	250

「備考」 同体重のもの 17
 体重記録なきもの 12
 計29試合を差引いた。

本項について考察すると次の如くなる。体重がすぐれている者が勝数に優勢を示していることは、体重だけの問題でなく、体重がすぐれていることに表4に示された通り段級の上位ということが加わり、また表11（勝敗時に於ける施技の傾向）を利用してみると体重のすぐれている者と体重の劣っている者とは施技数に若干の差があるが、その差が僅少で投技の点ではどちらも大部分強力な力で相手を自分の側に引きつけて投げる技が多い。また表12（固技）に示された如く、抑技が大部分で力を必要とする施技がきまり技になっている事実を考えれば、特に体重のおとっているものはもっと機会をとらえ前後左右に投げ得る施技や力のみならず、絞技、関節技の特質を生かした施技を考えるべきで、これを実現するには各技の性格を細かに把握すると共に練習者個々の身体的特性を考え、実用的な練習こそ必要でありまた指導が必要と考えられるが、この点の研究の手ぬかりが体重の劣っている者に現われた結果と考えられている。

尙体重がすぐれている者はその差が大きくなるにしたがい勝数が増加しているが、差1kg、4kg、のところだけは体重のおとっている者の勝数が多くなる。また差10kg以上に於ても体重のおとれるものの勝数がみられるのが興味ある現象である。



4 体重の面からみた勝敗数

表4

試合数	体重大の勝数		体重小の勝数		引分 数	
	人数	%	人数	%	人数	%
250	142	56.8	66	26.4	41	16.8

[註] これは段位、学年に関係のない分類である

表2より表3を作ってみると相手より体重大にして勝ったもの142人(56%)、小にして勝ったもの66人(26.4%)であった。体重がまさっている者の勝数がおとっているものの2倍以上にも達しているので、体重がすぐれている者は勝負に有利と判断される。しかし引分41試合の16.4%の内容を表2によると体重差9kgの間に分布しており、体重差14kg、17kg、20kgに於て引分のみられるのが特に注目される。

図1 体重差と勝敗の分布

5 体重差と勝敗を段級から分析

表5

段 級		体重大にして勝てる数		体重小にして勝てる数		試 合 数
体 重 大	体 重 小	人 数	%	人 数	%	
イ	2段—2段	3	100	0	0	3
ロ	2—初	26	83.9	5	16.1	31
ハ	2—0	9	100	0	0	9
ニ	初—2	4	30	10	20	14
ホ	初—初	52	71.2	21	28.8	73
ヘ	初—0	28	65.1	15	34.9	43
ト	0—2	0	0	2	100	2
チ	0—初	9	37.5	15	62.5	24
リ	0—0	7	77.78	2	22.22	9
計		138	66.3	70	33.7	208

勝敗を全くの段級だけの面からみようとしたが整理の途中で体格の内容も押えながらの見方が意味があると思われたのでこれによることにした。208 試合の結果からみると、体重が大である場合は、ロ、ハ、ヘの如く段級上位のものの方が勝数の点ですぐれ、段級上位の優位性を示している。ト、0 ← 2段の場合は試合がわずかの2試合であるが、ニ、チと同様体重がおとっている2段が段級上位の優位性を示している。またヘの場合体重小である無段者に相当の勝数のみられるのはⅡの1の学年別段位表の備考に記述してあることが結果としてあらわれたものと考えられる。更に以上のことから知られることは、とかく段級の審査内容に異議だてるものもあるが岩手県柔道協会で行った昇段審査には高校に関する限りほとんど間違いのないことが知られる。勿論選手がその段級を得てからの練習態度で技能の変化を生ずることは当然のことであり結果として表にあらわれていることと思われる。

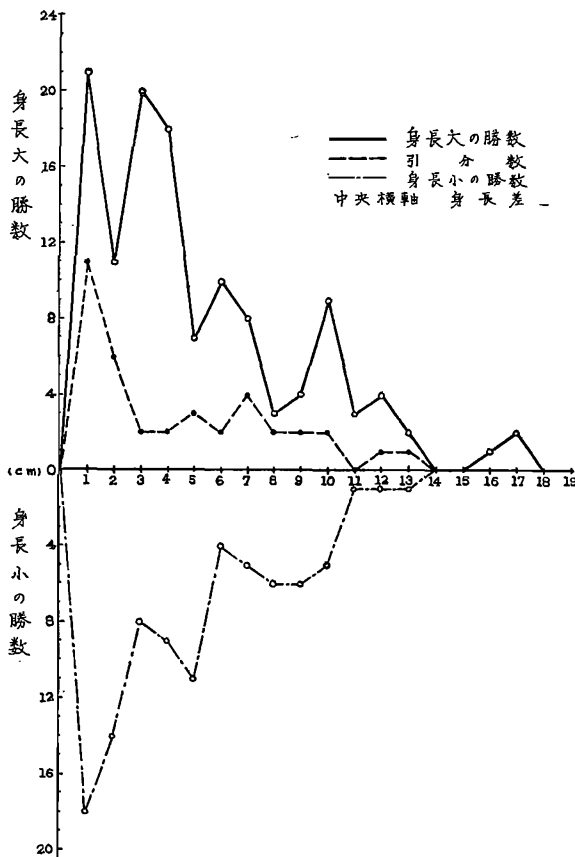


図 2 身長差と勝敗の分布図

6 身長差と勝敗の分布

表 6

区分 差(cm)	勝敗		引分数	計
	身長大 の勝数	身長小 の勝数		
1	21	18	11	50
2	11	14	6	31
3	20	8	2	30
4	18	9	2	29
5	7	11	3	21
6	10	4	2	16
7	8	5	4	17
8	3	6	2	11
9	4	6	2	12
10	9	5	2	16
11	3	1	0	4
12	4	1	1	6
13	2	1	1	4
14	0	0	0	0
15	0	0	0	0
16	1	0	0	1
17	2	0	0	2
18	0	0	0	0
19	0	0	0	0
20	0	0	0	0
計	123	89	38	250

備考 同身長13試合、身長記録なきもの16試合
合計29試合を除き250試合である。

7 身長の大小による勝敗数

表 7

試合数	身長大の勝者数		身長小の勝者数		引分	
	人数	%	人数	%	人数	%
250	123	49.2	89	35.6	38	14.8

7項に対して表5、6から次のことが知られる。身長大で勝ったものの割合は49.2%、身長小で勝ったものの割合は35.6%であって身長大である者は身長小であるものより有利であることが知られる。しかし表5にみられるように、身長差2cm、5cm、8cm、9cmにおいて身長がおとっているものが勝数多いこと、引分の内容で身長差1cm~13cmの間に分布していることは面白い現象である。柔道の勝負では体格以外に、段級の相異、試合方法や内容から受ける心的な面に相当に影響されるが、3項に対する考察と同様身長で相手に劣っている場合の勝負では技の性質、身体の特性等を考慮して実用化できるよう同一の技だけの練習にとどめず固技並びに技の連絡変化等の面まで練習する必要がある。この点の研究不足が表5、6の身長の劣っているものの勝敗結果を生じたものと考えられる。

6 身長差と勝敗を段級の面から分析

表 8

段	級		身長大にして勝てる数		身長小にして勝てる数		試合数
	身長大	身長小	人数	%	人数	%	
イ	2段	2段	2	66.7	1	33.3	3
ロ	2	初	19	79.2	5	20.8	24
ハ	2	0	5	100	0	0	5
ニ	初	2	10	38.5	16	61.5	26
ホ	初	初	51	59.3	35	40.7	86
ヘ	初	0	16	55.2	13	44.8	29
ト	0	2	0	60.0	5	100	5
チ	0	初	13	52.0	12	48.0	25
リ	0	0	7	77.8	2	22.2	9
計			123	58.0	89	42.0	212

表7の212試合からみると試合数が僅少であるが同列のイ、2段 \leftrightarrow 2段り、0 \leftrightarrow 0ホ、初 \leftrightarrow 初では身長大であることの有利さを示している。ロ、ハ、ニ、ヘ、トでは段級上位の優位性を示している。ただチ、0 \leftrightarrow 初段の部では身長のまさっている無段者が身長のおとっている初段に僅少であるが勝数でうわまっていることが意外であるがこのことはやはりⅡの1、学年別段位表の備考に記述したことが影響した結果であろう。更に段級で1段階位の違いでは7項についての考察と同様体格の相違、試合方法、内容から試合者の受ける心的影響等は高校

生の勝負殊に試合経験の少ない場合とは相当関係があるが、これらが影響した結果とも考えられる。

7 身長、体重共大なる者の勝数及び身長、体重共小なる者の勝数

表 9

身長、体重共大なる者		身長、体重共小なる者		試合数
勝数	%	勝数	%	
92	71.8	36	28.2	128

註、これは段級の関係については全くふれず形態的な面からのみの見方である。

体重の大小別の勝割合を表3からみると体重大の場合は56.8%、体重小の場合は26.4%である。身長の大別別の勝割合を表6からみると身長大の場合は49.2%身長小の場合は35.6%ではほぼ同傾向である

とみることができる。身長体重共大の場合は71.8%となって表3、6の場合より相当に勝割合が増加している。体格がすぐれていることは勝負に圧倒的に有利に影響することを表8がものがたっている。けれども反面体格のおとっている者にも約30%の勝割合を示していることは注目される大きな点である。

8 身長、体重共大小の勝敗を段級の面から分析

表 10

段	級		身長、体重共大		身長、体重共小		試合数
	大	小	勝てる数	%	勝てる数	%	
イ	2段	2段	2	100	0	0	2
ロ	2	初	20	76.9	6	23.1	26
ハ	2	0	5	100	0	0	5
ニ	初	2	5	41.7	7	58.3	12
ホ	初	初	32	74.4	11	25.6	43
ヘ	初	0	15	68.2	7	31.8	22
ト	0	2	0	0	0	0	0
チ	0	初	3	30	7	70.0	10
リ	0	0	7	87.5	1	12.5	8
計			89	71.8	39	28.2	128

表9に示す如く段級が同列のイ、2段ホ、初段リ、0の部に於ては体格がすぐれているものに圧倒的に優勢を示している。これは体格のすぐれていることの有利さが加わった結果であると考えられる。けれどもホ、初段の部に於て体格のおとっている者に25.5%の勝割合を示していることは注目される。ロ、2段→初段ハ、2段→0ヘ、初段→0の部で体格がすぐれ段級上位の者に優勢な勝数を示していることは体格のすぐれている有利さに段級上位の優位性が加わった結果で当然のことと考える。ニ、初段→2段チ、0→初段の部に於て試合数が僅少であるが体格が劣っているのに段級上位の者に勝数で優勢を示しているのは段級上位の優位性が確立されていると考えてよからう。

9 身長の大別別の勝数を投技、固技からの分類

表 11

身長大なるものの施技数	身長小なるものの施技数	計 (%)
投 技 104	62	166 (83)
固 技 17	17	34 (17)
計 121	79	200

表7の身長大にして勝った数123試合より施技名の記入ないもの2試合、また身長小にして勝った数89試合から施技名記入ないもの10試合を除いた試合数が左記の表であるが、いずれも

投技が圧倒的多数である。このことは現行の試合審判規定が投技を主体としてなされているため、また試合者が規定に余り忠実であるため固技に対する研究と練習とがおろそかにされている点が指摘される。

10 勝敗時に於ける施技の傾向

表12 投技の内容

技 名	数	順 位
内 股	38	1
跳 腰	34	2
背 負 技	29	3
払 腰	21	4
釣 込 腰	11	5
大 外 刈	9	6
大 内 刈	6	7
体 落	5	8
送 足 払	4	9
出 足 払	2	10
支 釣 込 足	2	10
返 し 技	4	9
小 内 刈	1	11
計	166	

表13 固技の内容

技 名	数	順 位
縦 四 方 固	10	1
袈 裟 固	8	2
横 四 方 固	5	3
肩 固	5	4
上 四 方 固	3	5
絞 技	2	6
十 字 固	1	7
計	34	

投技で順位4位までが圧倒的多数で手技、腰技、足技にまたがっている。施技で度合の高い程勝負を決定するのに適切な技で換言すれば一般的には攻撃技で防禦にむずかしい技といえよう。施技の範囲も広いとはいえないがかなりの範囲で、これは人間の身体的適性が柔道の施技に対し如何に多彩であるかを示すと同時に、施技指導の重要さはその適性化にあることを意味するものであろう。また返し技の少いことは、引分主義から勝負を決しようとする高校柔道の試合態度が強いためと判断される。固技では表12に示す如く、押技の如く力を必要とする施技が圧倒的で絞技、関節技に全くのみおとりがする。瞬間的に力を要せず勝を得ることの多い絞

技、関節技の研究に手をぬいていることが知られる。体格の余りすぐれていない者にとってはこの技の研究練習が必要であることが今までの調査結果から強く感じさせられる。之を全国高校大会に比較すると以後に述べる通りである。

表14 勝敗時に於ける施技の傾向（全国高校大会 大滝氏調査）

投 技 (759)

施技名	年 度	昭和27年	28	29	30	31	32	計	順 位
	試合数	305	315	305	315	317	319		
内 股		11	32	22	26	29	26	146	1
大 外 刈		22	18	31	14	9	15	109	2
跳 腰		23	11	11	23	8	10	88	3
背 負 投		16	20	15	8	12	13	84	4
払 腰		13	2	6	12	15	11	59	5
釣 込 腰		3	8	7	11	11	17	57	6
合 せ 技		6	不明	11	19	6	27	59	5
大 内 刈		3	9	4	7	3	4	30	7
足 払		5	5	8	5	2	2	27	8
返 し 技		1	不明	7	不明	11	11	30	7
小 内 刈		2	3	5	1	3	0	14	10
体 落		5	4	1	3	0	8	21	9
小 外 刈		1	2	1	4	3	0	11	11
巻 込		1	0	0	0	3	0	4	12
大 腰		1	0	2	0	1	0	4	12
巴 投		1	0	1	1	0	0	3	13
移 腰		0	0	1	1	1	0	3	13
浮 腰		1	0	0	2	0	0	3	13
足 車		1	0	0	0	0	0	1	14
掬 投		0	0	0	0	1	0	1	14
釣 込 足		0	0	0	0	0	4	4	12
後 腰		0	0	0	0	0	1	1	14
計		116	114	135	127	118	149	759	

表15 固 技 (230)

施技名	年 度	昭和27年	28	29	30	31	32	計	順 位
	試合数	305	315	305	315	317	319		
上 四 方 固	10	} 21	4	2	0	3	} 87	} 1	
崩上四方固	8		6	11	13	9			
袈 裟 固	18	7	10	14	4	11	64	2	
送 襟 絞	} 5	4	5	5	5	4	} 31	} 3	
片 十 字 絞		1	0	0	0	0			
逆 十 字		0	1	0	0	0			
片 羽 絞		0	0	1	0	0			
縦 四 方 固	0	6	2	6	4	3	21	4	
横 四 方 固	0	2	2	3	4	1	12	5	
十 字 固	3	0	0	3	1	0	7	6	
腕 が ら み	1	0	1	3	1	0	6	7	
肩 固	0	0	1	1	0	0	2	8	
計	45	41	32	49	32	31	230		

以上が高等学校体育連盟主催の全国高校大会の試合結果である。このうち投技及び固技で勝負が決したものが76.7%、固技で決したものが23.3%の割合である。これに本調査の結果を比較すると、投技と固技については投技83%、固技は17%で多少増減があるが、傾向としては大体同じである。また技の順位としては7位までは多少の順位が異なるが、同施技が使用され、しかも内股がいずれも上位を占めている。固技では抑込技が圧倒的に多く全国大会と同傾向とみることが出来る。本調査の結果の固技も全国大会と同様勝割合が低いことは高校生選手の特徴とおさえられるのかも知れないが、試合規定が大きな影響を及ぼしている結果であるとみることの方が妥当と考えられる。

11 身長的大小別にみた勝敗時の施技傾向

表16 投 技

施 技 名	身長大にして勝てる数	順位	施 技 名	身長小にして勝てる数	順位
跳 腰	32	1	背 負 投	18	1
内 股	31	2	払 腰	9	2
払 腰	12	3	内 股	7	3
背 負 投	11	4	釣 込 腰	7	3
大 外 刈	7	5	大 内 刈	4	4
釣 込 腰	4	6	体 落 し	4	4

施 技 名	身長大にして勝てる数	順位	施 技 名	身長小にして勝てる数	順位
大 内 刈	2	7	大 外 刈	2	5
体 落 し	1	8	出 足 払	2	5
送 足 払	2	7	送 足 払	2	5
返 し 技	2	7	支 釣 込 足	2	5
			跳 腰	2	5
			小 内 刈	1	6
			返 し 技	2	5
計	104			62	

表17 固技

施 技 名	身長大にして勝てる数	順位	施 技 名	身長小にして勝てる数	順位
縦 四 方 固	7	1	肩 固	4	1
袈 裟 固	5	2	上 四 方 固	3	2
横 四 方 固	3	3	縦 四 方 固	3	2
肩 固	1	4	袈 裟 固	3	2
十 字 固	1	4	横 四 方 固	2	3
			絞 技	2	3
計	17			17	

以上からみても投技では身長の大別小別に於て上位3位までは順位が若干違うが同じ技である。本県高校選手はどんな技を中心に練習しているかが本表で知られ小範囲の技に中心がしぼられ指導層の薄さが指摘される。固技では余力を必要としない瞬間的に勝負を決し得る絞技、関節技に全くみおとりがし、これの研究的態度の低調さが知られる。これは投技と共に指導層の弱さの結果がもたらした姿といえるだろう。

III ま と め

この調査に現れた結果は以上記述した通りであるが、資料に於ても必ずしも多くなく、しかも1度の本県だけの調査であって、すぐに高校柔道選手に対して結論づけることは勿論性急で、更に回を重ねての調査を必要とするが、本調査だけから一般的な傾向として、次のことが知られる。

- 1 表2、5にあらわれた通り、身長または体重がすぐれている場合は大体同じ割合の勝数を示して、いずれも有利である。しかし身長または体重が劣っている場合でも35.6%、26.4%の勝割合を示しており、尚14.8%、16.8%の引分のあることは身長または体重のすぐれていることは絶対的な勝負の条件になるとみることが出来ない。
- 2 身長、体重共にすぐれている場合は前1項より更に勝負に有利と考えられるが、やはり前1項と同様のことがいえる。

- 3 段級と勝敗については表4、6、9から段級の上位のものは優勢を示していることが知られるが、前1、2項に述べた体格の相違が相当に影響している面もあることが知られる。高校選手級では段級の1段階位の違いは試合経験、その他試合場の種々の条件に影響されて、段級の優位性を示していない反面のあることは否定できない。従って柔道の勝負では柔道技術以外の研究も必要になる。
- 4 勝敗時の施技傾向としては表10にあらわれたように、投技の83%、固技の17%と投技が圧倒的多数で体格がすぐれているもの、おとっているもの、共に投技を中心に更に大体同種類の技を中心に練習を積んでいることが指摘される。これは試合審判規定が投技を中心に行っていること、並びに指導者が技の性格、身体的特性による施技の研究指導に貧弱であることが大きな原因となっていると考えられる。また身長的大小別の勝敗時の施技傾向を表15からみると身長にすぐれているものは第1位の内股、身長がおとっているものの第1位は数に於て余り多くはないが背負投となっており、身体的特性上から合理的な施技の傾向であると思う。けれども前記したように、固技に於て、いずれも絞技、関節技の如く余力を必要としない弱小者でも瞬間的に勝敗を決し得るような技の練習又機会のとらえ方の練習等が積まれていないことが、調査内容及び試合経過をみて明瞭に知られる点である。このことが特に体格のおとっているものに勝数の少ない結果を生じた1つの原因とみることができる。前述したように体格のすぐれていることは確かに勝負に有利であるとは認められるが、体格のおとっていることは直ちに体格のすぐれているものに敗れるものであるとは言えない。それは段級が存在するからであると考えられる。ただ今後の調査に残される問題点は体格でどの程度の差が生じた場合は高校選手では対等の勝負が不可能になるかの限界をおさえ、それによって体格差の段階区分を考える必要のあることは認めざるを得ない。

これがまた柔道発展のための1つの方法になるものと調査結果から考えられる。現在全国高等学校体育連盟柔道専門部会では軽量級、中量級、重量級の3階級に区分し軽量級58kg以下、中量級68kg以下、重量級68kg以上となっているが、その根拠が明瞭でない。本調査から表2の体重差と勝敗の分布では10kgの範囲内に勝敗の分布の度合が多く、表5の身長差と勝敗の分布では13cmの範囲内に勝敗の分布の度合が多い。けれどもこれによって体格差の段階区分の問題まで検討を進めるには、資料に全く不足している部分もあるので調査結果をみることのできなかつたのが残念である。

最後に本調査と直接試合の審判員としての立場から考えると、本県高等学校柔道界にはすぐれた直接の指導者に恵まれておらないことが指摘される。昭和38年度から正課必修となった高校柔道の正しい発展のための解決の第一歩は適切な指導者の配置を急速に実施することである。文部省に於ては、この指導者の問題解決の措置として昭和39年度に旧制中学校卒業程度以上のものを対象として学科、実技、面接等を2日間にわたり試験を実施し、筆者も技術試験官として出席したが、柔道は体育科の1教材であり、指導者は大学に於て一般、教職、専門教育の必要単位をおさめ、更に採用試験に合格したものが担当することになっている現状から考えると、文部省の措置には大分問題があると痛感する。本県の柔道指導者の問題に関しては、教員養成機関である本学部体育科で指導者養成の立場から何等かの配慮が強く打ち出されるべきであると考えられる。この調査にあたり多大の便宜を与えられた岩手県高校柔道専門部会の先生方に敬意を表したい。